英文解釈 L01 第 3 講 動詞のまとまりから時・態・判断を読む

学習目標

- 助動詞・be・have を含む述語全体を捉え、その形が表す情報を読み取れる。
- 出来事と明示された基準時との関係を区別し、時間の情報を保って訳せる。
- 受け手と行為者の関係や、文脈に応じた助動詞の意味を正確に読み取り、自然な日本語に訳せる。

凡例：S＝主語、V＝述語全体、O＝目的語、C＝補語、M＝修飾語。V は必要な be・have などを含む述語全体を示す。名詞のまとまりは〈〉、形容詞のまとまりは〔〕、副詞のまとまりは()で示し、いずれも品詞そのものではなく文中での働きを表す。V は名詞の〈〉で囲まない。

動作語だけで切らない

解説

英文を読むとき、動作を表す語だけを拾うと、何が起きたかは分かっても、いつのことか、ある時点で進行中だったか、過去の出来事が現在とどうつながるかが抜け落ちる。同じ動作でも、述語の形によって読み取れる情報は変わる。

① 単純現在：習慣

Mina cleans 〈the desk〉 (every morning).
S V O M
M “every morning” → V “cleans”

（ミナは毎朝、机を掃除する。）

② 単純過去：過去の出来事

Mina cleaned 〈the desk〉 yesterday.
S V O M
M “yesterday” → V “cleaned”

（ミナは昨日、机を掃除した。）

③ 進行形：過去の特定時点で進行中

(At nine yesterday), Mina was cleaning 〈the desk〉.
M S V O
M “At nine yesterday” → V “was cleaning”

（昨日の 9 時、ミナは机を掃除している最中だった。）

④ 現在完了：過去の動作と現在とのつながり

Mina has cleaned 〈the desk〉.
S V O

（ミナは机を掃除し終えている。）

4 文の動作は同じだが、述語は cleans、cleaned、was cleaning、has cleaned と異なる。特に進行形の was cleaning では was が過去の時点を示し、cleaning と組み合わさって進行中の動作を表す。現在完了の has cleaned では、has と過去分詞 cleaned が組み合わさり、過去の動作と現在との関連を表す。was を落として cleaning だけ、has を落として cleaned だけを見ても、述語全体が伝える情報は保てない。

このように、本講では述語を、時制を担う形と必要な補助要素を含むひとまとまりとして捉える。なお、ここでの be は進行形を作る要素であり、常に「イコール」を意味するわけではない。have も、現在完了では「持っている」という意味ではなく、述語の形を作る要素として働く。既習の文法知識を、完成した英文の意味を正確に読むために使うことが重要だ。

基準時と出来事の関係

解説

過去形も進行形も現在完了形も、単に「した」と訳すだけでは、それぞれの時間関係が見えなくなる。大切なのは、出来事がいつ起きたかだけでなく、どの時点からその出来事を捉えているかを確かめることだ。

① 単純過去：過去の出来事

Mika cleaned the kitchen at five yesterday.（ミカは昨日 5 時に台所を掃除した。）

注記：時間図は前後関係を模式的に示すもので、目盛りは実際の時間幅や時計時刻を表さない。進行を示す区間の端も、動作の実際の開始・終了時刻を確定するものではない。点の形状は図上の表現であり、時制の普遍的な規則を示すものではない。

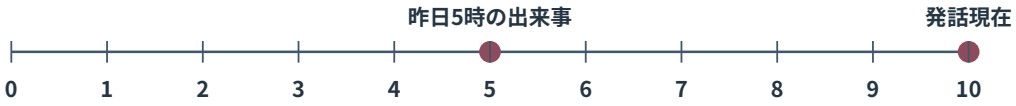

図 1　単純過去 掃除の出来事を昨日 5 時という過去の時点に位置づける

昨日 5 時という過去の時点に、掃除という出来事を位置づけている。出来事そのものを過去の事実として述べる形だ。

② 過去進行：過去の基準時に進行中

At five yesterday, Mika was cleaning the kitchen.（昨日 5 時、ミカは台所を掃除している最中だった。）



図 2　過去進行 昨日 5 時を含む進行中の動作

同じ昨日 5 時でも、こちらはその時点で掃除が進行中だったことに焦点がある。was cleaning 全体を捉えることで、過去の時点と動作の進行中という関係を保てる。

③ 現在完了：過去の出来事と現在との関連

Mika has cleaned the kitchen.（ミカは台所を掃除し終えている。）



図 3　現在完了 過去の掃除と現在との関連を示す模式図

状況：この場面では、掃除の結果として現在は台所がきれいな状態にある。

掃除という出来事を、発話している現在とのつながりから捉えている。この例では、掃除の結果が現在の状態に関係している。現在完了形を、いつでも単に「動作が完了した」と訳せばよいわけではない。

④ 過去完了：過去の基準時より前の出来事

昨日 5 時に友人が訪ねてきた場面を振り返る。

Mika　had cleaned　〈the kitchen〉　(by five yesterday).
S　V　O　M

M “by five yesterday” → V “had cleaned”

（ミカは昨日 5 時までには台所を掃除し終えていた。）



図 4　過去完了 掃除の出来事は昨日 5 時の基準時より前で発話現在はさらに後

基準となるのは、友人が訪ねてきた昨日 5 時という過去の時点だ。掃除はその基準時までに済んでいた。had cleaned 全体を捉えることで、過去の基準時と、それより前に起きた出来事との関係が分かる。

時を表す語句は判断の手がかりになるが、yesterday などの一語だけで時制を決めることはできない。述語の形と文脈を合わせて、発話現在・過去の基準時・出来事の前後関係を区別することが重要だ。

©ミライコーチング

文脈から助動詞の意味を読む

解説

助動詞を含む述語は、動作を表す語だけでなく、助動詞と動詞の原形をひとまとまりにして読む。助動詞は、行為を求めるのか、許可するのか、可能性を述べるのか、根拠から判断するのかによって、日本語での表し方が変わる。

① 義務：must

学校の規則で、実験室では保護メガネの着用が求められている。

語注：safety glasses：保護メガネ、lab：実験室

Students must wear 〈safety glasses〉 (in 〈the lab〉).
S V O M

V “must wear” / 規則に基づく義務
M “in the lab” → V “must wear”

（生徒は実験室で保護メガネを着用しなければならない。）

この文の must wear は、規則に基づいて行為を求める表現だ。

② 許可：may

係員が、利用者に部屋の使用を認めている。

You may use 〈this room〉.
S V O

V “may use” / 利用を認める許可

（この部屋を使ってもよい。）

ここでの may use は許可を表す。同じ may でも、可能性を述べる場合とは意味が異なる。

③ 可能性：may

午後の天気について、まだ確かなことが分かっていない。

It may rain (this afternoon).
S V M

V “may rain” / 午後の天気についての可能性
M “this afternoon” → V “may rain”

（今日の午後、雨が降るかもしれない。）

may rain は、雨が降る可能性を述べている。②の許可とは異なり、ここでは何かをしてよいと認めているのではない。

解説

④ 根拠に基づく推量：must

明かりがついている。家の中に人がいると考えられる状況だ。

The lights are on.

Someone must be home .
S V M
V “must be” / 根拠に基づく現在の推量
M “home” → V “must be”

（明かりがついている。誰かが家にいるに違いない。）

ここでの must be は、規則や義務ではなく、明かりがついているという根拠からの判断を表す。

このように、must は義務にも推量にも、may は許可にも可能性にも使われる。助動詞だけを機械的に一つの日本語へ置き換えず、文脈と述語全体を照らし合わせることが重要だ。また、推量は話者の判断であり、述べられた内容が確定した事実であることを意味しない。

場面の根拠	今回の助動詞の意味
実験室では保護メガネの着用が規則で求められている	must：義務
係員が利用者に部屋の使用を認めている	may：許可
午後の天気がまだ確定していない	may：可能性
明かりがついているという根拠がある	must：現在の推量

主語と行為者を分けて読む

解説

英文の主語は、必ずしも動作をする人とは限らない。能動態では動作をする側が主語になりやすいが、受動態では動作を受ける側を主語として取り上げる。主語の位置だけで、誰が何をしたかを決めないことが大切だ。

① 基本能動：動作をする側を主語にする

語注：technician：技術者（修理を担当する人）

〈The technician〉 repaired 〈the laptop〉 yesterday .
S V O M
M “yesterday” → V “repaired”

能動態：行為者が主語として示される

〈The technician〉 repaired 〈the laptop〉 yesterday.
行為者 受け手
phrase “The technician” / 行為者
phrase “the laptop” / 受け手

（技術者は昨日、そのノートパソコンを修理した。）

主語は The technician、述語は repaired だ。技術者が修理する側、ノートパソコンが修理を受ける側である。

② 基本受動：動作を受ける側を主語にする

〈The laptop〉 was repaired (by 〈the technician〉) yesterday .
S V M M

V “was repaired” / 受動態
M “by the technician” → V “was repaired”
M “yesterday” → V “was repaired”

受動態：受け手が主語として示される

〈The laptop〉 was repaired (by 〈the technician〉) yesterday.
受け手 行為者

phrase “The laptop” / 受け手
phrase “the technician” / 行為者

（そのノートパソコンは昨日、技術者によって修理された。）

主語は The laptop、述語全体は was repaired だ。was と過去分詞 repaired が組み合わさり、ノートパソコンが修理を受けたことを表す。by the technician は動作をする側を示している。能動態と比べると主語は変わるが、修理する側と修理を受ける側の関係は変わらない。

③ 助動詞付き受動：必要性などを加える

〈The laptop〉 must be repaired (by 〈the technician〉).
S V M

V “must be repaired” / 必要性を含む受動態
M “by the technician” → V “must be repaired”

必要性を含む受動態：想定される行為の参加者

注記：これは必要とされる修理の行為者と受け手を示すものであり、修理が実施済みであることを意味しない。

〈The laptop〉 must be repaired (by 〈the technician〉).
受け手 行為者

phrase “The laptop” / 受け手
phrase “the technician” / 行為者

（そのノートパソコンは技術者によって修理されなければならない。）

述語全体は must be repaired だ。must が必要性を加え、be repaired が受動の形を作る。この文は修理の必要性を述べており、修理がすでに実行されたという意味ではない。

なお、受動態でも行為者を常に示す必要はない。The laptop was repaired yesterday.（そのノートパソコンは昨日修理された。）のように、by 句がなければ、誰が修理したかを原文だけから特定することはできない。

主語という文の構造上の役割と、行為者・受け手という意味上の役割を分けて確認する。 そのうえで述語全体を確保すれば、誰について述べているか、動作がどう行われるか、必要性などの判断が加わっているかを正確に読み取れる。

1

状況：昨日の正午を基準に、エマの理科の課題の進み具合を振り返る場面である。

語注：science project：理科の課題

At noon yesterday, Emma had finished her science project earlier that morning.

a. 述語全体の範囲を示し、課題を終える出来事と昨日の正午との時間関係を一組で説明せよ。

b. 英文全体を自然な日本語に訳せ。

1

a. 述語全体と時間関係

述語全体は had finished である。had は助動詞として述語の形を作り、finished は過去分詞である。課題を終えた出来事は、昨日の正午という過去の基準時より前、その日の午前中に起きている。

根拠は、At noon yesterday が過去の基準時を示し、earlier that morning が出来事の時点をそれより前に位置づけていることだ。finished だけを拾わず、had finished 全体を捉えることで、過去の基準時との前後関係を保てる。

(At 〈noon yesterday〉) [M], Emma [S] had finished [V] 〈her science project〉 [O]

(earlier (that morning)) [M].

M “At noon yesterday” → V “had finished”
M “earlier that morning” → V “had finished”



図 5　午前中に課題を終えた出来事 昨日正午は過去の基準時であり完了時刻ではない

b. 和訳

直訳

エマは昨日の正午の時点で、その日の午前中に自分の理科の課題を終えていた。

満点の訳

昨日の正午の時点で、エマはその日の午前中に自分の理科の課題を終えていた。

この文では、課題を終えた時点と、基準となる正午を区別することが重要だ。自然な日本語に整える場合も、出来事の前後関係を変えない。なお、had finished は過去の基準時より前の出来事を表すが、あらゆる完了形を単に「終わった」と置き換えればよいわけではない。

©ミライコーチング

2

状況：夜のオフィスから話し声が聞こえ、入口の明かりもついている。

Someone must be inside the office right now.

a. 述語全体の範囲を示し、助動詞がこの状況で表す意味を一組で説明せよ。

b. 英文全体を自然な日本語に訳せ。

2

a. 述語全体と助動詞の意味

述語全体は must be である。この文の must は、規則による義務ではなく、状況から導いた判断を表す。

話し声が聞こえ、明かりもついているという根拠から、話者は誰かが今オフィスの中にいると判断している。be だけでなく must be 全体を捉えることで、現在の状態に対する話者の判断を読み取れる。

Someone (S) must be (V) (inside 〈the office〉) (M) (right now) (M).

V “must be” / 根拠に基づく現在の推量であり確定事実ではない
M “inside the office” → V “must be”
M “right now” → V “must be”

b. 和訳

直訳

今、誰かがオフィスの中にいるに違いない。

満点の訳

今、誰かがオフィスの中にいるはずだ。

この文は、誰かがいることを確定した事実として報告するのではなく、状況を根拠に判断している。文脈に合う自然な表現であれば、「いるに違いない」「いるはずだ」などの訳が考えられる。

3

状況：昨日、自転車の修理が行われた。修理を担当した人も記録されている。

語注：mechanic：整備士、local：地元の

The bicycle was repaired by a local mechanic yesterday.

a. 述語全体の範囲を示し、動作を受ける側と動作をする側の関係を一組で説明せよ。

b. 英文全体を自然な日本語に訳せ。

3

a. 述語全体と動作の関係

述語全体は was repaired である。was と過去分詞 repaired が組み合わさり、受動態を作っている。

主語の The bicycle は修理を受ける側であり、by a local mechanic が修理をする側を示す。文頭の名詞が主語だからといって、それを動作の行為者と判断してはいけない。述語全体の形を確かめることで、動作の向きを正しく捉えられる。

〈The bicycle〉 was repaired (by 〈a local mechanic〉) yesterday .
S V M M

V “was repaired” / 受動態
M “by a local mechanic” → V “was repaired”
M “yesterday” → V “was repaired”

〈The bicycle〉 was repaired (by 〈a local mechanic〉) yesterday.
受け手 行為者

phrase “The bicycle” / 受け手
phrase “a local mechanic” / 行為者

b. 和訳

直訳

その自転車は昨日、地元の整備士によって修理された。

満点の訳

その自転車は昨日、地元の整備士によって修理された。

どちらの訳も、昨日修理されたこと、自転車が修理を受ける側であること、地元の整備士が修理を行う側であることを保っている。原文にない依頼や恩恵は加えない。

演習問題

1

状況：昨夜 8 時、ミホの机には未整理の資料が広がっていた。

語注：sort：整理する

At eight last night, Miho was sorting the papers on her desk.

a. 述語全体の範囲を示し、明示された時点と動作の関係を一組で説明せよ。

b. 英文全体を自然な日本語に訳せ。

2

状況：今、レオはアパートの玄関前にいるが、鍵が見当たらない。

語注：misplace：置き忘れる

Leo has misplaced the keys to his apartment.

a. 述語全体の範囲を示し、出来事と現在との関係を一組で説明せよ。

b. 英文全体を自然な日本語に訳せ。

3

状況：係員は利用者にフロントデスクを示し、荷物の扱いについて案内している。

語注：front desk：受付、leave：預ける

You may leave your bags at the front desk.

a. 述語全体の範囲を示し、助動詞がこの状況で表す意味を一組で説明せよ。

b. 英文全体を自然な日本語に訳せ。

4

状況：図書館の掲示には、借りた本の返却期限が金曜日と記されている。

Library users must return borrowed books by Friday.

a. 述語全体の範囲を示し、助動詞がこの状況で表す意味を一組で説明せよ。

b. 英文全体を自然な日本語に訳せ。

©ミライコーチング

5

状況：昨日、荷物が午前中に届いたことが配送記録に残っている。

語注：courier：配達員

The package was delivered by a courier before noon.

a. 述語全体の範囲を示し、動作を受ける側と動作をする側の関係を一組で説明せよ。

b. 英文全体を自然な日本語に訳せ。

6

状況：橋の表面に新しい亀裂が見つかり、再開前の安全確認が必要になっている。

語注：inspect：点検する、damaged：損傷した、trained：訓練を受けた、engineer：技術者

The damaged bridge must be inspected by trained engineers today.

a. 述語全体の範囲を示し、動作を受ける側と動作をする側の関係を一組で説明せよ。

b. 英文全体を自然な日本語に訳せ。

©ミライコーチング

演習問題の解答・解説

1

a. 述語全体と時間関係

述語全体は was sorting である。was が過去の時点を示し、sorting と組み合わさって、その時点で動作が進行中だったことを表す。At eight last night が示す昨夜 8 時に、ミホは書類を整理している最中だった。

動作を表す sorting だけでなく、was sorting 全体を捉えることで、過去の基準時と動作の進行中という関係を保てる。

(At eight last night) , Miho was sorting 〈the papers 〔on 〈her desk〉〕〉.
M　　S　　V　　O

M “At eight last night” → V “was sorting”



図 6　昨夜 8 時は進行中の動作区間内で区間端は模式的な範囲を示す

b. 和訳

直訳

昨夜 8 時に、ミホは自分の机の上の書類を整理しているところだった。

満点の訳

昨夜 8 時、ミホは机の上の書類を整理していた。

「整理した」だけでは、昨夜 8 時という時点で動作が進行中だったことが伝わらない。日本語の自然な表現は異なっても、その時間関係を保つことが重要だ。

2

a. 述語全体と現在との関係

述語全体は has misplaced である。has と過去分詞 misplaced が組み合わさり、過去の出来事を現在との関連から捉えている。

状況では、レオはアパートの玄関前にいて、鍵が見当たらない。鍵を置き忘れた出来事が、現在の状況に関係していると読める。misplaced だけでなく has misplaced 全体を捉えることが大切だ。

Leo has misplaced 〈the keys 〔to 〈his apartment〉〕〉.
S　　V　　O

V “has misplaced” / 過去の出来事と現在との関連



図 7　置き忘れた出来事と現在の玄関場面との関連を示す模式図 実際の時刻は特定しない

b. 和訳

直訳

レオは自分のアパートの鍵を置き忘れてしまった。

満点の訳

レオは自分のアパートの鍵を置き忘れてしまった。

現在完了形は、過去の出来事と現在との関連を表す。この文では文脈がその関連を示しているが、訳に「今、鍵がない」などの状況説明を重ねる必要はない。現在完了をいつでも単に「完了した」と置き換えるのではなく、文脈と述語全体から意味を捉える。

3

a. 述語全体と助動詞の意味

述語全体は may leave である。may と動詞の原形 leave が組み合わさっている。

係員が利用者に荷物の置き場所を案内している状況なので、ここでの may は可能性ではなく許可を表す。助動詞の意味は一語だけで固定せず、場面と照らし合わせて判断する。

You　may leave　〈your bags〉　(at　〈the front desk〉).
S　V　O　M

V “may leave” / この場面では利用の許可を表す
M “at the front desk” → V “may leave”

b. 和訳

直訳

あなたは自分の荷物をフロントデスクに置いていってもよい。

満点の訳

荷物はフロントデスクに置いていって構わない。

この文では、荷物を置くことが許されているという意味を保つ必要がある。「置いていくかもしれない」とすると可能性の意味になり、係員の案内が示す許可の意味が失われる。

4

a. 述語全体と助動詞の意味

述語全体は must return である。must と動詞の原形 return が組み合わさっている。図書館の規則として返却が求められている状況なので、ここでの must は義務を表す。

return だけでは、返却という動作は分かっても、規則によってその行為が求められていることが伝わらない。述語全体を捉え、助動詞の意味を文脈と照らし合わせることが重要だ。

〈Library users〉 must return 〈borrowed books〉 (by Friday) .
S V O M

V “must return” / 規則に基づく義務を表す
M “by Friday” → V “must return”

b. 和訳

直訳

図書館利用者は、借りた本を金曜日までに返却しなければならない。

満点の訳

図書館を利用する人は、借りた本を金曜日までに返さなければならない。

by Friday は金曜日までという期限を表す。「金曜日に返す」とすると期限の意味が変わるため、返却が求められる期限を正確に保つ必要がある。

5

a. 述語全体と動作の関係

述語全体は was delivered である。was と過去分詞 delivered が組み合わさり、受動態を作っている。

主語の The package は配達を受ける側であり、by a courier が配達をする側を示す。述語全体の形を確かめることで、荷物と配達員の意味上の役割を取り違えずに読める。

〈The package〉 was delivered (by 〈a courier〉) (before noon).
S V M M

V “was delivered” / 受動態
M “by a courier” → V “was delivered”
M “before noon” → V “was delivered”

〈The package〉 was delivered (by 〈a courier〉) (before noon).
受け手 行為者

phrase “The package” / 受け手
phrase “a courier” / 行為者

b. 和訳

直訳

その荷物は正午前に配達員によって配達された。

満点の訳

その荷物は正午前に配達員によって届けられた。

自然な日本語に整えるときも、荷物が動作を受ける側であり、配達員が動作をする側であるという関係を保つ。状況にある「昨日」という情報は英文に含まれていないため、訳には加えない。

©ミライコーチング

6

a. 述語全体と動作の関係

述語全体は must be inspected である。must に続く be inspected が受動の形を作っている。

主語の The damaged bridge は点検を受ける側であり、by trained engineers が点検をする側を示す。must は点検の必要性を表しているため、点検が実際に行われたと断定してはいけない。

〈The damaged bridge〉 must be inspected (by 〈trained engineers〉) today .
S V M M

V “must be inspected” / 点検の必要性を表し実施済みとは限らない
M “by trained engineers” → V “must be inspected”
M “today” → V “must be inspected”

〈The damaged bridge〉 must be inspected (by 〈trained engineers〉) today.
受け手 行為者

phrase “The damaged bridge” / 受け手 / 点検を受ける対象
phrase “trained engineers” / 行為者 / 必要とされる点検の行為者であり実施済みを示さない

b. 和訳

直訳

損傷した橋は今日、訓練を受けた技術者たちによって点検されなければならない。

満点の訳

損傷した橋は今日、訓練を受けた技術者たちによって点検されなければならない。

どちらの訳も、今日点検されなければならないという必要性、橋が点検を受ける側であること、訓練を受けた技術者たちが点検を行う側であることを保っている。この文は点検の必要性を述べており、点検が実際に行われたと断定するものではない。

©ミライコーチング